

第 35 回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会 プログラム (オンライン開催)

2024 年 12 月 14 日 (土) ・ 15 日 (日)

参加費 一般 : 5,000 円 学生 : 3,000 円

大会テーマ

「SLA 研究の最前線

—インプット・インターアクション・アウトプットの役割を再考する—

■ 2024 年 12 月 14 日 (土) ■

10:00~12:00 <<若手応援企画>>

3 人の多様なキャリアから考える私たちのこれから
—大学院からその先へ—

進行 : 山元 一晃 (金城学院大学)

大学院生や若手研究者のみなさんにとって、自分にあったキャリアを見つけることは大きな挑戦であると思います。本企画では、同じ日本の大学院を出発点としながら、海外の大学、母国の大学、日本国内の大学とそれぞれ異なる道を歩んでおられる 3 名の先生方をお招きします。大学院での研究テーマや経験が現在のキャリアにどのように活かしているのか、また転機となった出来事や決断のプロセスなど、具体的なお話を通じて、参加者の皆様が自身の可能性を広げ、将来を前向きに考えるきっかけとなることを目指します。

経験豊富な、みなさんのちょっと先を歩む先生方との対話を通じて、不安や悩みを共有し、これからのキャリアを考える機会として、お気軽にご参加ください。

【発表者】

- 桐澤 絵里奈 (イギリス : ケンブリッジ大学)
- 鄭 穎 (中国 : 福州大学)
- 酒井 晴香 (日本 : 東京国際大学)

13:00~13:15 開会式

司会 : 中島 祥子 (鹿児島大学)

開会宣言 清水 崇文 (第二言語習得研究会 会長)
佐々木賞 授賞式
事務局からの連絡

13:20~14:20 <<ポスター発表>> (ブレイクアウトルームでディスカッション)

司会：チョーハン アヌブティ (筑波大学)

- 語りの聞き手による終結部の判断と語りの協働達成
ー接触場面の雑談を対象にー

犬飼 亜有美 (仙台高等専門学校)

- 初級クラスにおけるディスカッション活動の有効性
ーアカデミックスキル習得のための授業計画ー

朝倉 郁子 (東京外国語大学)

(休憩)

14:30~16:00 <<口頭発表>>

司会：藤浦 五月 (武蔵野大学)

14:30~15:00 JFL の中国人学習者はどのように受身文を処理するか
ー誤用を産み出す「に+受身形式」の言語処理ストラテジーからー
陳 曦 (名古屋大学大学院生)

15:00~15:30 繰り返しタスクによる発話情報量の変化
ー顕著な伸びを示したある学習者の事例からー
近藤 行人 (名古屋外国語大学) ・ 田中 典子 (名古屋大学)

15:30~16:00 中国人日本語学習者における中日二言語間の単語切替速度が日本語
発話産出に及ぼす影響
夏 雨璇 (広島大学大学院生)

16:00~16:20 ジャーナル投稿&発表応募へのお誘い

■2024年12月15日(日)■

10:00~11:50 <<基調講演>>

司会：西坂 祥平（お茶の水女子大学）

インプット・インターアクション・アウトプットと第二言語習得

白井 恭弘（ケースウェスタンリザーブ大学）

10:00~11:30 講演

11:30~11:50 全体質疑・まとめ

11:50~12:10 総会

（昼休み）

13:30~16:20 <<シンポジウム>>

コーディネーター：瀬尾 匡輝（茨城大学）

いかに理論と実践を結びつけるか —SLAに基づく教育方法の今—

13:30~13:35 シンポジウム趣旨説明

瀬尾 匡輝（茨城大学）

13:35~14:10 COIL 教育実践が切り拓く新たな第二言語習得分析のフロンティア
—Industry 5.0時代がもたらすコミュニケーションの複雑性に挑む—

池田 佳子（関西大学）

14:10~14:45 CLIL の教育原理と実践例 —4Cs の観点から気づく変化—

奥野 由紀子（東京都立大学）

14:45~15:20 TBLT の指導原理と第二言語教育実践 —教室活動において「応答
可能なインプット」をどのように増やすことができるか—

百濟 正和（関西国際大学）

15:20~16:20 全体ディスカッション・総括

16:20~16:30 閉会式

司会：瀬尾 匡輝（茨城大学）

16:30~17:30 クロージングパーティー